

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1691000135		
法人名	株式会社 天正		
事業所名	イエローガーデン高瀬		
所在地	富山県南砺市北市256番1		
自己評価作成日	平成29年8月10日	評価結果市町村受理日	平成29年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	平成29年9月1日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念「尊厳を守る」「感謝」「楽笑」を大事に利用者様が安心、安全でいつも笑顔で暮らせるように、利用者様の意見や気持ちを取り入れながら、やりたいことができる環境作りに努めています。今年は駐車場の脇に畑が出来、野菜作りや花の世話、毎日の水やりや虫取り、草むしり、そして収穫の喜びを通して利用者間、職員間により良いコミュニケーションがとれ、より和やかな雰囲気作りにもつながっています。また、二ヶ月に一回イエローカフェを開催し、近所の方や利用者様のご家族様にも事業所やグループホームについて知っていただく機会を設け交流しています。毎年、秋の恒例行事では利用者様(ご家族)、職員合同で温泉一泊旅行を実施しており、皆様に大変喜ばれています。事業所にある2匹の猫(はな・ゆず)は利用者様と職員にとって、とても癒やしとなり、かけがえのない家族になっています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

砺波平野に多くみられる伝統的家屋「アズマダチ」の特徴を取り入れた建物外観は漆喰の白壁とこげ茶の色調で統一されており、建物内も過剰な装飾はなく、落ち着いた雰囲気を醸し出している。毎年秋には、家族も参加できる一泊の温泉旅行を企画し、家族との触れ合いを楽しむ場を提供している。事業所理念のひとつである「楽笑」は“利用者、家族、職員がともに笑って過ごせるような施設づくりを目指す”の意があり、誰もが居心地の良さが実感できるよう取り組んでいる。「ゆず」と「花」と名付けられた2匹の猫が利用者の癒しとなっている。また、昨年から開催している認知症カフェ「ねこの手」には近隣の方々や家族の参加があり、さまざまな活動を通して地域住民や家族との顔の見える関係作りに努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「尊厳を守る」「感謝」「楽笑」を職員全員で共有し、利用者様一人ひとりにあったケアを実践しています。また職員会議では、必ず理念の意味を確認している。	「尊厳を守る」「感謝」「楽笑」の3つの理念は常に職員が目につけることができるよう掲示している。とりわけ、「楽笑」は、利用者、ご家族、職員が共に笑って過ごせるような施設を目指すことを意味している。月1回開催されている全体会議では、職員一人ひとりが理念に沿った行動目標を発表している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	旬の野菜を頂いたり、折り紙のボランティア、散歩中の声かけを通し交流している。	偶数月の第3土曜日に開催している「認知症カフェねこの手」には毎回ご近所の方も参加されている。開催日が近づくと、職員が直接、近隣のお宅へ伺い、直接チラシをお渡しし参加を呼び掛けている。また、近所の方が収穫された野菜は利用者の食卓を賑わし、丹精込めて作られた花々は施設内を彩っていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に一度、カフェを開催し近所の方々に自由に入っていただき、グループホームの生活や認知症の方との関わりを知ってもらう機会をつくっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を行い、事業所でのサービス内容や利用者様のことを話し合い、地域の情報(祭り、行事等)を情報交換し当事業所でのサービスに活かせるようにしている。	2ヶ月に1回開催される運営推進会議には、北市地区区長、民生委員、地域包括センター職員、ご家族が出席している。すべての家族には参加のご案内を出されていたが、参加者は2割に満たないのが実態である。なお、推進会議は事業所にとって、地域の状況を知る機会となっており、秋の「文化祭」に利用者の作品を展示するよう働きかけられ、現在、利用者とともに作品作りに取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や南砺市が主催の事業所連絡会に参加し協力関係を築けるように取り組んでいる。	運営推進会議には毎回、地域包括支援センターから出席があり、制度の改正に伴う最新の情報を聞くと共に、事業所を運営するうえでの困りごとを相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の目につくところに行動指針「コンプライアンスルール」を掲示し、入社時、会議で研修を行っている。玄関の施錠はせず、ケアの質をあげる努力をしている。	「利用者権利擁護指針(コンプライアンスルール)」を事業者内に掲示し、日頃から身体拘束や権利侵害をしない介護の実践を意識づけしている。29年度は7月に「身体拘束と高齢者虐待について」の勉強会を実施した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の目につくところに行動指針「コンプライアンスルール」を掲示し、入社時、会議で研修を行っている。また日頃から利用者様の心身状態の観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	系列事業所で成年後見制度を利用している方がいるなど、会社全体で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込時や契約時に説明を行った上で不安や要望を聞き、理解・納得できた段階で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には積極的にコミュニケーションを図り、意見や要望を伺い運営に反映できるように取り組んでいる。遠方のご家族にはLINEやメールを活用している。	運営推進会議や各種行事に参加された機会や日頃の面会時など家族が施設に来訪された際には事ある毎に家族からの意見や要望を聞き取っている。また、毎年秋に実施している一泊の温泉旅行には家族も参加されているので、意見や要望などを積極的に聞き取っている。把握できた情報は職員間で共有し運営に反映させている。	広く平等にご家族の意見や要望を掬い上げる手段の一つとして定期的に家族アンケート調査等の取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議、ランチミーティング(会社幹部、系列事業所職員が参加)を行っている。話しやすい場づくりをし、全体で良くなるための話し合いを行い運営に反映している。	会社幹部が出席する月1回開催しているランチミーティングでは、昼食を共にしながら、運営に関する意見や要望を話し合っている。また、開催の都度、参加職員に対し、理念に沿ったアンケートを記載してもらい、サービスの質の向上に努めている。	行事、権利擁護、ケア向上などの取り組みが主に管理者中心に行われているが、職員のアイデアを活かし、活性化するためにも委員会活動等に取り組まれることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを作成し、個々の能力に応じた待遇に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に応じ、事業所内外で研修の機会を設けている。資格取得のための勤務調整や補助制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われる事業所連絡会に参加し、情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の様子を観察し、不安そうな表情や要望があれば傾聴し少しでも安心して生活出来るような関係・環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、面会時に家族に意見・要望を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込時の想いやケアマネージャーからの情報をもとに必要なケアが行えるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や農作業等で、人生の大先輩として、沢山のことを教わりながら共に生活させていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診、美容院など家族の協力を仰ぎながら共に支えていけるよう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が訪ねてこられたり、馴染みの美容室、お祭りや墓参りなどの習慣を継続出来るように家族に協力してもらいながら支援に努めている。カフェなどで訪ねやすい環境をつくっている。	家族の協力を得ながら、通いなれた美容室、自宅までの外出、買物など馴染みの関係の継続が図れるような支援が実践されている。また、週2回の食材購入日には、利用者も共にでかけ、地域との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、フロア関係なく関わり合い、支え合い、楽しむ事ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、ケアマネージャーや家族との関係性を大切にしながら必要があれば相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の今までの生活習慣やこだわりなどの情報を収集して個別ケアに活かすよう取り組んでいる。また、日常の関わりや会話の中から要望や希望の把握に努めている。	利用者のこれまでの暮らしを把握するため、家族の方にも「センター方式」の一部を記載していただき、生活習慣やこだわりなどの情報を収集して個別ケアに活かすよう取り組んでいる。また、日常の関わりや会話の中から要望や希望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のアセスメントを通して、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らしが今後も継続できるよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェック、申し送りを行い日中の関わりの中で変化がないか等、状態の把握に努めている。また入浴時に身体の状態を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の要望、ニーズにそった介護計画を作成できるよう努めている。定期的にカンファレンスを行い、介護計画を見直す機会をつくっている。今後カンファレンスに家族の参加をお願いしていきたい。	介護計画は全体会議の場で6ヶ月ごとに見直し、利用者の状態が変化した場合はその都度その方の意向に沿いながら、原案を作成、職員全員で話し、対応の仕方について検討、一人ひとりの思いを反映できるよう現実に即した介護計画を作成している。しかし、家族の都合もあり、検討は事業所の職員間で行わざるを得ないのが実態である。	家族の参加が得られにくい実情であるが、できる限り、本人及び家族が参加したカンファレンスが開催されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアを個人記録に記入し、職員間で共有し申し送りを実践するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズや家族の状況により、買い物、病院の送迎、日々の生活など柔軟に対応出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の散歩で花をもらったり、近所の職員の畑に行き野菜を採るなど、今まで楽しんでいたことが継続出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医を選択してもらっている。協力医とは月1回の往診や24時間連絡体制をとり、適切な医療がうけられるよう支援している。	本人・ご家族が希望される医療機関に受診している。受診は原則、家族に同行していただき、その際、日頃の様子を記入した「病院受診記録」を持参していただいている。主治医からは「病院受診記録」に介護上の留意点等の指示を仰ぐなど適切な受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回看護師が、健康状態の把握や利用者、職員からの報告、相談を受け、適切な医療、看護がうけられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員や家族と連絡体制を密にとり、情報交換を行いながら、早期に入退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針を作成し、今後、本人や家族が看取りを希望される場合は早い段階から医師、看護師とともに話し合いを行い、希望する最期を迎えることができるように取り組んでいきたい。	入居契約時に「看取り対応への指針」を本人及び家族に説明し、重度化や終末期における事業所としての基本的な考え方を説明し同意を得ている。これまで看取りの実績はないが、必要となった場合は、個々の状態変化に応じ医療との連携のもと、一人ひとりの状況に合わせ本人や家族に寄り添い、何が最善なのか共に考え、支援を行いたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議の中で話し合ったり研修を行い、緊急時に対応出来るように意識を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を実施。地域の区長さんにも協力を要請し、一緒に訓練ができる協力体制を築いていきたい。また、事業所内でも全職員が通報や避難など速やかに行えるよう訓練していきたい。	年に2回の火災想定避難訓練を実施している。今年度は第1回は砺波地区消防組合南砺署の立会いの下、5月10日に実施し、避難経路の確認や消火設備等の取り扱いなど実効性のある訓練を行った。なお、防災訓練については、高瀬地区で検討中であるため、実行することとなった場合、共同で参加したい旨を地区代表に申し入れしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの個性や人生の歴史を尊重した声かけや関わりができるよう職員間で話し合いを行っている。日々、どんな時も実践できるよう心がけている。	職員は、事業所の掲げる理念に従い利用者一人ひとりの尊厳とプライバシーの確保に努め、職員間で声掛け、気づきを月1回の全体会議等で話し合い、日々のケアに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定、自分らしさをもった生活ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、本人の希望に応じた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、爪切り、着替え時等は働きかけ、訪問カットの際は希望通りのカットを行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたいものを聞いたり、近所の方からいただいたものや畑でとれた旬の野菜を使い、それぞれの調理方法の話題で盛り上がり、利用者、職員とともに楽しんでいる。盛り付けや片付けも会話をしながら一緒に行っている。	利用者の方と一緒にスーパーで食材を購入したり、近隣の方が栽培した野菜を使い、料理の下ごしらえや調理の盛り付けなど個々の状況に合わせて食事作りを楽しんでいる。また、利用者の食欲を高めるため、彩りや昔ながらの郷土食を積極的に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、排尿の状態、気温などを観察し、その方にあった食事や水分、おやつを提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には声かけを行い、支援が必要な方には職員が一部介助し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や排泄習慣により、声かけを行っている。できるだけトイレで排泄出来るよう支援している。また、リハビリパンツから布パンツへの移行も支援している。	排泄チェック表や「三側表」を活用し、個々の排泄パターンを把握し、一人ひとりの状況にあった排泄支援を行っている。関わり方や言葉かけなど尊厳を重視し、昼夜問わずトイレでの排泄に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を把握し、主治医に相談し、便秘予防に努めている。また、個々の状態に合わせ、水分多めの食事や食物繊維、牛乳やヨーグルト、腹部マッサージや運動など薬以外の摂取で便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度入浴の曜日、時間は決まっているが、個々の状態に合わせて時間を調整し、出来るだけ希望に沿った入浴ができるように支援している。	最低週2回を目安に、午後1:30～4:00の間に入浴の機会が確保されている。利用者の要望があれば、個々の状況に合わせ、その都度柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣によってだが、眠りにつきやすいように最小限の灯りにしたり、眠れない場合は無理に横になってもらおうとはせず、温かい飲み物を提供したり、話をして落ち着いていただいている。空調などの環境にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日頃より病歴、薬剤情報の把握、確認を行い、体調の変化があった場合には、主治医と連携をとり適切な服薬ができるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や、その方との関わりで、出来ることを増やし、気分転換、やりがい、得意なことの継続など日々が楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、ドライブ、外出など家族の協力を得ながら、可能な限り出かけられるよう支援している。	年間行事計画に沿って、お花見や七夕まつりの見学を実施している。お風呂のない水曜日には、その日の利用者の要望に合わせ、散歩やドライブを計画し、実行している。また、毎年秋には家族も参加できる一泊の温泉旅行を計画し、家族の協力を得ながら楽しみを実感できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に合わせ、出来る方には自分で小遣いをもって買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話出来るようになっており本人が安心できるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には必要以上の飾りはせず、不快や混乱を招かないようにしている。空調や気温、湿度等快適に過ごせるように配慮している。こまめな換気を行い匂いなど不快感をなくすよう努めている。	砺波平野に多くみられる伝統的家屋「アズマダチ」の特徴を活かした建物は、漆喰の白壁とこげ茶の色調で統一され、建物内は過剰な装飾はなく、落ち着いた雰囲気を醸し出している。施設内には「ゆず」と「花」と名付けられた2匹の猫が利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで気のあった利用者とは話したり、ゆっくりテレビを見るなど家庭的な雰囲気をづくり、それぞれが居心地良く過ごせるような空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っておられたものや、馴染みのもの、飾っていたものを持ち込んでいただき、安心して居心地よく過ごせるようにしている。	居室には、本人が入居前から愛用していた椅子や書棚、テレビが置かれ、一人ひとりの個性に合わせ、居心地よく暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身の状況により、ベッドや家具の配置を工夫し、安全に自立した生活ができるよう支援を行っている。		

(別紙4(2))

事業所名 イエローガーデン高瀬

作成日: 平成 29年 10月 20日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	介護計画は全体会議の場で6ヶ月ごとに見直し、利用者の状態が変化した場合はその都度その方の意向に沿いながら、原案を作成、職員全員で話し、対応の仕方について検討、一人ひとりの思いを反映できるよう現実に即した介護計画を作成している。しかし、家族の都合もあり、検討は事業所の職員間で行わざるを得ない実態である。	利用者へのサービスの向上のため、広く平等にご家族の意見や要望を掘り上げる手段の一つとして年に一回は家族アンケート調査に取り組む。	10月には外部のアンケートがあるため、家族の負担も考え、2月頃にアンケートを実施する。	5ヶ月
2	11	行事、権利擁護、ケア向上などの取り組みが主に管理者中心に行われているが、職員のアイデアを活かし、活性化するためにも委員会活動等に取り組まれることを期待したい。	ケアの向上を図るために、幹部や管理者の考えだけでなく、職員のアイデアを生かして行く。	ミーティングの場で職員の意見を取り入れてケアの向上を目指し、委員会活動の提案をして、役割分担を決める。	6ヶ月
3	26	家族の参加が得られにくい実情であるが、できる限り、本人及び家族が参加したカンファレンスが開催されることを期待したい。	ご家族の思いを聴き、利用者のこれまでの生き方を継続できるケアを目指す。	ご家族の都合に合わせて、参加しやすい環境を作り、ご本人、家族とカンファレンスを行う。	2ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。